

## 監事監査報告書

2019 年度第 3 回監事監査結果につきまして次のとおり報告いたします。

監 事 藤山 勝光



監 事 曾場 利夫



監査日時 令和元年 12 月 3 日(火曜日) 13 時 3 0 分～17 時 30 分

監査場所 法人研修センター 2 階研修室

監査監事 藤山 勝光  
曾場 利夫

- 監査内容
- I 2019 年度第 2・四半期の法人の事業運営状況
    - 理事会・評議員会の開催状況
    - 役員・職員の研修の実施状況
    - 各種会議の開催実施状況
    - 各種委員会等の開催実施状況
  - II 2019 年度第 2・四半期年度の各施設・事業所の事業運営状況
    - 職員の状況
    - 職員研修の実施状況
    - 職員会議の実施状況
    - 利用者の状況
    - 利用者等からの苦情受付の状況
    - 利用者に係る事故の発生状況
    - 利用者の余暇活動・行事等の実施状況
  - III 2019 年度第 2・四半期の予算執行及び財務状況について
  - IV 預り金管理サービスの管理状況
  - V 行政指導監査等の指摘事項の内容確認と改善措置について
  - VI 銀山学園における食中毒発生の経過の確認と対応について
  - VII その他

## 監査報告

私たち監事は、2019年度7月1日から9月30日までの2019年度第2・四半期の法人及び各施設の事業運営状況、並びに法人全体の予算の執行状況、預かり金の管理状況について監査を行いました。また、行政指導監査に係る指摘事項、並びに銀山学園における給食委託事業で発生した食中毒事案の内容確認と対応について確認を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告します。

### 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、法人事務局及び各総務部長に対して、法人並びに各施設・事業所に関する事業の運営状況、予算の執行状況に関する資料の提出を求め、必要に応じて説明を求めました。また、預かり金管理においては、利用者の預金通帳及び出納帳等について閲覧し照合しました。

さらに、行政指導監査に係る指摘改善事項については、その結果通知の写しの提出を受け、関係資料を閲覧し、改善策について確認しました。

以上の方法に基づき、当該期間における事業の運営状況並びに予算の執行状況、及び指導監査による指摘改善通知に対する改善策の妥当性について検討しました。

### 2. 監査意見

仁木・小樽地区の各施設・事業所の利用率について確認しました。仁木地区においては通所介護事業を除いて、入所及び通所利用、共同生活援助事業とも90%台の利用率で推移しています。一方、小樽地区では、通所事業において事業所毎の利用率に格差が生じています。現在、新たな就労支援施設の建設工事が行われております。新年度以降の事業再編が検討されているとのことです。事業所における利用率の維持について鋭意取り組まれるよう検討をお願いします。

各施設・事業所の避難訓練については、事業計画に則り実施されていることを確認しました。特に、小樽市さくら学園では毎月、訓練が実施されています。仁木地区の共同生活援助事業所「ふきのとう」では、自動火災報知機の設置に伴い、通報訓練が行われました。また、大江学園では、消防と連携して消火栓放水訓練が実施されました。大切な命をお預かりするため、消防との連携の強化と訓練内容の見直しについて随時の検討をお願いします。

銀山学園において11月10日未明より発生した給食委託事業者が提供した副食を原因とする食中毒事案について詳細な報告を受けました。保健所による原因究明に時間を要し、結果として、部分的ではあったものの利用者の行動制限(外出禁止等)が生じたとのことです。また、重篤化したケースはなく、発症後翌日には回復されたとのことです。施設においては新聞報道後、時間



をおかず、保護者・家族並びに法人評議員・役員に対して経過の報告が実施されております。発症から原因究明までの詳細な経過報告とその内容を確認し、施設管理者並びに職員の対応については最善を尽くされたと評価するものです。また、委託業者の発症後の対応についても施設として高く評価しており、今後とも委託を継続していきたいとの意向であります。本理事会においても経過報告が予定されていることから、今後の対応について検討をお願いします。

仁木地区の通所介護事業所えんれいそうでは、今年度より町保健師を講師に職員の認知症研修が実施されております。年6回の計画を全て終了したとのことです。住民からは、認知症をはじめとする介護支援の開始について、「どこに相談すればいいのか。」「どこに行けばいいのか。」との戸惑いの声を耳にしております。介護を必要とする状態になってから介護認定を受けて支援が開始されるまでに相当の期間を要しているのが現状です。住民からの相談を「ワンストップ」で受け止めて、住民の不安を解消するとともに、早期に介護支援に繋げる環境とするため、その機能を十全に発揮されるよう期待するものです。

北海道による法人本部並びに和光学園に対する指導監査の結果通知を確認しています。指摘改善事項についての改善策は、理事会議案として提出されることとなっています。障害福祉サービスの報酬については、基本報酬の他に多くの加算措置がとられています。結果として、加算対象の利用者の日々の記録にはその支援の実施の有無についての記載がなされなければならないと国の告示や道の条例に定められているところです。改善報告等の内容についてはこうした定めに従って検討をお願いするところです。

本年度予算執行における9月末現在の状況について報告します。標準執行率50%に対して、事業活動収入が48.89%、事業活動支出が49.38%の執行となっています。執行率において、支出が収入を上回る状況となっています。事業活動予算における収支差額率も4.6%と決して高くはありません。今後の設備資金借入の償還や冬季の燃料費等が控えていることから、慎重な予算執行が求められます。また、損益計算における事業活動収支利益率(営業収益)は、前年同期比で1.38%の改善となっています。ただし、近年の施設整備が木造構造主体で償却期間がコンクリート造りよりも短いことから減価償却費の比率が高めとならざるを得ません。この点を考慮した法人経営の改善への取り組みも同時に求められるといえます。

その他、法人組織及び事業の管理運営状況において諸規則に違反する事実はありませんでした。